

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400427		
法人名	みなとの丘グループ株式会社		
事業所名	グループホーム風の丘 2F		
所在地	島根県出雲市小津町23番地1		
自己評価作成日	平成29年3月2日	評価結果市町村受理日	平成29年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成29年4月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家族が来られた時は一緒にゆっくり過ごして頂けるように努めている。写真を撮って居室に飾ったりして、家族との絆を保つようしている。 ・個々にできること、洗濯たたみや食器洗いなど職員が意識的に関わり、一緒に行い、本人の満足感が得られるようにしている。 ・毎朝バイタルチェックをし健康管理を務めている。必要に応じ看護師や主治医に報告し、医療面の充実を図っている。 ・一人ひとりの入居者とのコミュニケーションを大切に、それぞれの希望に沿えるように話し合っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小津町あたりには、福祉施設がなかったことから、住民の強い要望から設立された同法人は、海に向かう県道脇の山を切り開き、通所サービス、居宅支援事業所、小規模多機能型居宅事業所など、地域に密着した福祉施設を次々に開設している。グループホーム風の丘は、満4年を迎えようとしており、一階、二階とも、利用者さんは、それぞれの居場所でゆったりとくつろいで過ごし、職員は、毎日を楽しく、満足のいくように過ごせるよう、レクリエーションや外出、行事など様々な工夫している。窓からは、自然が眺められ、施設内は清潔で明るく、職員は親切で優しく、笑顔で話しかけている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所と玄関に掲示し、職員は同じ思いで実践している。共有するために話し合いを重ねている。	職員の思いで作られた理念「尊重し穏やかな生活を彩れる支援」は、御本人を思う御家族にとっても、意義のあることとして、職員が感じ、明るく楽しい生活を送れるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	個々に受診やドライブ等に出かけ、地域と交流をしている。	近隣地域からの入居が多く、隣接するデイサービスや、小規模多機能型事業所などとの交流も期待できる。ドライブや買い物、散歩など、出かける機会も設け、地域との付き合いもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて認知症の人の理解や支援方法を積み上げてきている。ひかりカフェを通じて少しずつ地域の人々へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、家族、地域の方の参加のもと実践内容を報告したり、意見を聞き、サービス向上に生かしている。入居者の参加を計画している。	会議では、介護についての関心が高く、認知症や高齢者の病気などについて意見が出ている。また、食事のことやレクリエーションについても提案があり、ホームとして、取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に市の方にも参加頂き、実践内容を報告し、意見を伺いサービス向上に取り組んでいる。	経済的に困難な方や家族の諸事情で市外の施設を利用している方などの適切な入居について、市の担当職員と相談するなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については各職員は何となく理解していると思うが、意識統一し、注意し合えるところまでいっていない。	利用者さんは、それぞれ認知症の状態も異なり、自分にとっては意味のある行動であるが、判断力が低下しているため、交通事故や、怪我などにつながることもあるので、常に見守りを継続するなど拘束の無いケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めているが、勉強は徹底できていない。平成29年2月22日に高齢者虐待防止の外部研修に数名参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成28年9月14日に隣接する小規模多機能事業所にて外部から講師を招き、成年後見制度やプライバシーと個人情報について学習した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約の締結時には、十分な説明を行い、理解、納得をして頂いている。入居後も密に連絡を取ったり、面会時には気になることなどないか伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡時や面会時にご要望がないか伺ったり、ケアプラン更新時には意向等を伺うようにして、ケアに結び付けたり、運営に反映している。	御家族は、利用者さんの生活をよりよいものにしたと、様々な意見を言われる。おいしい旬の物を食事として差し入れたり、清潔な施設や部屋なども希望しておられ、職員はそれらを実現するためとりにくんでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と主任では毎朝話し合っているが、職員と意見を話し合う機会が少ない。職員の意見を反映させるように努めている。	利用者さんが、楽しく快適な生活を送れるように、職員は常に、様々な意見を述べて、検討している。管理者は、職員一人一人と面接して、意見や思いを聞き取る機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	離職者が少ないことが示すように職員はやりがいや向上心を持って働いている。給与水準は低いかもしれないが、残業はほとんどなく、また定期的に有給休暇もとれるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はケアマネージャーに1人合格した。介護福祉士には1人が受験した。外部の研修には積極的に参加しているが、参加職員が固定しつつある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ会社とは合同研修会を開いて交流している。他グループホームへの見学を計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書(アセスメントシート)等を読んで本人の情報を理解し、ケアの方向性について職員同士で話しあい、共有するよう努めている。本人とはしっかり会話をして、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に状態を報告し、「来てよかった。また来よう。」と思って頂けるよう気持ちの良い対応を心がけている。遠方の方には電話等で状況を報告し信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が必要としているケアをプランに取り入れたり、情報収集して本人に必要なケアを取り入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の視点で、なるべく見守りを中心行い、できないところは支援するようにしている。生活の場に入る努力はしているが、暮らしを共にする意識は職員一人一人違うと感じる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればすぐに連絡をし、面会時に希望を聞いたり、こちらの方針を伝えていく努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等からの情報をもとに馴染みの人や場所を会話の中に取り入れるようにしている。馴染みに方の面会時には居室等でゆっくり話ができるようにしている	地域の要望から生まれた事業所であり、入居者も近隣の方が多い。日常的な外出や、訪れる地域の人々との交流などで、馴染みの場や人との関係は継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の会話、おやつ時等に気かけ、入居者同士が良い関係を築いていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方との関係はほとんどなくなっている。知人より情報を聞く程度で、相談や支援まではできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの物語を聞き取って希望や意向を把握するようにしたり、家族からどんなことをしていたか聞き取っている。	認知症の方の思いを引き出すのは難しいときもあるが、その方の生きてきた物語を聞き取ったり、ご家族からその方の好みや意向を聞き取ったりして、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを確認し、生活歴等を把握するようにしている。また家族面会時にも情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状況を申し送りや記録、職員同士の情報交換で心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族を交えたカンファレンスはできていないが、家族面会時や電話等で意向を伺い、本人にあった、本人らしい生活ができるように介護計画書作成している。	介護計画担当者による、家族、本人の意向を踏まえた介護計画は、ユニットの職員全員で検討して個別に作られており、状況の変化に応じて見直し変更がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、情報共有は行っているが、ケアプランに基づいた記録になっていない。毎月モニタリングして必要ならケアプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と話し合い、要望に応じた支援に取り組んでいる。病院への送迎、付き添い等、個別のニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所周辺にある港や風車公園、愛宕山公園などに出かけ楽しむようにしている。大社の方には稲佐の浜まで行き、懐かしんで頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	古くからのかかりつけ医を利用することで、本人及び家族が安心して医療を受けられるよう支援している。	地域におけるかかりつけ医に継続して受診できることは、自ら症状を表現できない認知症の高齢者さんにとっては、早期発見早期治療につながる。できるだけ、なじみのかかりつけ医に受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の小規模多機能施設の看護師に必要な報告し指示を仰いでいる。平成29年2月より外部より看護師を常勤でお願いしており、個々の入居者が適切な看護が受けれる体制となった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院訪問時に看護師と情報交換を行っている。入院中も管理者が家族と連絡をとったり、病院へ行き、早期退院に向け、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	2月に1名の看取りをした。看護師や主治医と協力し安心して最期を迎えられるように心がけた。ご家族からは大変感謝して頂いた。	利用者さんのかかりつけ医の協力や、隣接する事業所にいる看護師の他に、派遣看護師を契約しており、二月には医療ケアの質の高い看取りができた。今後も重度化した場合のよりよいケアについて取り組んでいく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成している。救命救急やAEDの使用について講習会を計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の小規模多機能施設と共に、火災時の避難訓練をしているが、地震や水害等について計画を立てている。	利用者さん参加の避難訓練を年に二回は行い、また、夜間想定のものも実施しており、法人全体で災害に対する備えを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	利用者さんは、それぞれに似合う着こなしで、落ち着いた雰囲気でご過ごしておられる。職員さんの声かけや親切で優しい態度は、一人一人を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは本人に自由に活動して頂いて、できないところや他に影響を与えるときなどは支援するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴については職員の都合で行っていることもある。生活リズムを一人一人に合わせていくために話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧のできる方には化粧をして頂いたり、男性の方には特に髭剃りを意識して援助している。適宜、訪問の散髪を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備ができる方が少ないが、中でも野菜を切ったり、盛り付け、下膳や食器洗いなどできる方にはして頂いている。	利用者さん家族から、差し入れ野菜や惣菜もあるという。皆でテーブルを囲んで和やかに食事を共にした。味付けも出汁がきいた薄味で、野菜も豊富であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副食は宅配業者をお願いしている。個別に細かく刻んだり一人ひとりにあった提供をしている。毎日の食事量や水分量を記録し、不足が出ないように気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人に任せている方については行えていない。介助の方は口腔ケアをしっかりと行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ内での失禁は少ないが、時々トイレ時に確認し、不潔にならないように支援している。居室にポータブルトイレがある方は定期的に掃除している。	利用者さんのほとんどが、失禁をされるが、それぞれの排泄パターンを把握しており、さり気なくトイレに誘うことで、自然な排泄ができるよう介助している。トイレは清潔で、尿臭などもない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分摂取量が少なく薬に頼っているケースもある。生活リズムを含め、運動・水分摂取を意識したケアを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・時間等職員の都合で行うことが多く、個々にそった支援ができていない。入浴時は気持ちよく入れるようにゆっくり時間をとっている。	浴室は明るく清潔で、利用者さんは入浴を保清のためだけでなく、リラックスした、楽しい時間として、職員の援助を受けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して過ごして頂けるようご本人の希望に沿って支援できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのファイルに薬の説明書を綴じて薬の用法・用量を把握できるようにしているが、内服薬が多く完全に把握できていない。病状等の変化があれば看護師や主治医に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方とは一緒に歌ったり、洗濯物を畳んで頂いたり、調理ができる方には一緒に野菜を切って頂いたり、一瞬でもその方の力が発揮できる場面を提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に応じてイベント的に多数で外出したり、当日の天候や本人の体調を考慮しながらドライブ等に出かけている。	ホームから民家のある町までは、数百メートルあって、歩いて町には出かけられないが、ホーム周辺の散歩や車での外出など日常的に外出しており、ホームに閉じこもらない暮らしとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方には所持して頂いて自由に使えるようにしている。欲しい物がある方は預り金の中から買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話の希望があれば電話をしている。携帯電話を所持している方が4名おり、自由に電話できるように充電等を適宜確認している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓から自然の緑が見れるようにカーテンを開けたり、飾りつけ等季節感の工夫をしている。毎日掃除をしたり、温度や湿度を確認に心地よく過ごして頂いている。	窓から自然の緑が見渡せるホールは明るく清潔であり、オープンキッチンで湯茶や料理が出来る家庭的な雰囲気である。ソファやテーブルなど居心地良く過ごせるよう配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルが2つあり、気の合う方同士で過ごして頂いている。トラブル等あれば、席を変えたり、居室に案内したりして居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人の思いいれのある家具などを持参して頂いている。希望があれば、なるべくかなえられるよう話し合っている。	個室は、窓から自然の風景が眺められ、明るく清潔である。利用者さんはそれぞれにプライベートな空間を居心地良く過ごせるようにと、家具や椅子ソファ、テレビなどをしつらえており、壁には写真や絵が飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方のできることはして頂くようにしており、なるべく声を掛けて行って頂くよう努めている。		